

製造業安全対策官民協議会 サブWG田村チームの検討状況と今後の方向性

I. 産業安全の経済効果と社会的評価

II. 体系的な安全教育の推進

サブWG田村チームの検討状況と今後の方向性(2022年度)

I. 産業安全の経済効果と社会的評価

1. 産業安全の経済効果と社会的評価

1. 目的

経営トップの産業安全対策への適正な投資に関する経営判断に資する
経営トップの安全の重要性認識、安全関係者の経営貢献の評価に資する

2. 安全対策の経済効果

①. 安全対策の経済効果の実態:

アンケート実施(2018年)、企業ヒヤリングの実施(2019年、2020年)

②. 安全対策の経済効果の評価ツール開発

概念整理(2019年、2020年、2021年)

評価ツールの試行(2021年)・開発(2022年)

③. 安全対策の経済効果に関する良好事例の提供(2022年)

3. 産業安全の社会的評価

①. 安全対策の社会的評価:アンケート実施(2017年)

②. 産業安全の社会的評価の考え方の整理と指標の検討

経営の安全理念、安全体制、安全活動、社会への情報発信、安全成績(直接、間接)

③. 産業安全の社会的評価の高い企業等へのインセンティブの検討

表彰、銀行融資、保険の優遇措置、規制緩和等

Ⅱ. 体系的な安全教育の推進

1. 目的

産業安全、社会安全を理解できる人材育成のため、初等・中等教育、高等教育、企業教育、社会人教育を適性に行う。

2. 産業安全教育の体系化と共有化

1) 階層別安全教育プログラム

- ①. 各産業分野、各階層実施安全教育プログラム: アンケート実施(2017年)
- ②. 階層別の安全教育プログラム例の紹介

2) 体感安全教育

- ①. 体感安全教育の体系的整理(2018年)
- ②. 体感安全教育の実態調査:
各産業分野、各階層が必要とする体感安全教育(2018年)
施設・設備の保有状況、利用状況: アンケート実施(2019年)
- ③. **体感安全教育施設・設備の情報共有化(アンケート実施、意見交換会)**
「はさまれ・巻き込まれ」(2021年)、「爆発・火災」(2022年)

3. 学校安全教育

- ①. 産業界の学校安全教育への協力実態: アンケート実施(2018年)
- ②. 小学校、中学校、高等学校、大学において、産業界として最低限実施して欲しい
安全教育内容の議論
- ③. 工場見学等での安全教育、出前安全教育(実験)の好事例の映像等の収集・紹介

体感安全教育施設・設備「爆発・火災」の情報共有化

I. 体感安全教育施設・設備「爆発・火災」に関する情報共有化

I-1. アンケート実施（別紙）

1. 保有目的
2. 施設・設備による教育方法
 2. 1. 施設・設備と教育時間：1) 保有施設・設備、2) 指導時間
 2. 2. 指導員：1) 人員、2) 主な経歴
 2. 3. 習得すべきポイント
3. 利用状況
 3. 1. 対象者
 3. 2. 利用状況：1) 自社、2) 協力会社、3) 一般
4. 体感安全教育の課題
5. 施設・設備の概要
6. 施設・設備対応の設計思想、7. 基準類の制定、
8. 施設・設備対応および基準も併せた教育

I-2. 意見交換会による情報共有化

1. 開催日：2022年12月～2023年1月
2. 話題提供事業所による報告
3. 意見交換

II. 体感安全教育施設・設備の情報共有化に関する今後の展開

安全対策の経済的効果

2021年度の成果 安全対策の経済的評価ツール試行版エクセルファイルの作成 ツール試行版（一部抜粋）

以下の 内にご入力ください。青の網掛けは入力不要です。 ※一部例示で数字等を入力していますが、入力の際は上書き又は不要な場合は削除をお願いいたします。
※ 内に何を入力するかについての解説は、別紙「安全対策の経済的評価ツール試行版_説明書」（以下「説明書」）から一部抜粋して、以下の該当する項目に記載していますので、説明書をお読みいただくなくても入力が可能です。

以下にご入力いただく対象としている「安全対策」について
対象：労働災害のリスクを実際に下げる個別の安全対策とします（安全装置の導入、危険源に近付かないための柵の設置等）
対象外：損害保険への加入等

費用(1) 初期費用

「初期費用」に、労働災害防止のための設備・装置の導入に係る、設備・装置そのものの価格、設置費用等をご入力ください。設備・装置の使い方に係る教育訓練費など導入時にかかる費用も初期費用に含めて下さい。

対象（安全対策）	〔例〕安全装置の導入、危険源に近付かないための柵の設置	
初期費用	10,000,000	[円]
使用予定年数	5	[年]

費用(2)ランニングコスト_各年で同一額の場合

ランニングコストが各年で同一額の場合、以下にご入力下さい。各年変動する場合は、記入不要です。以下の「費用(3)ランニングコスト_各年で変動する場合」に入力してください。
※「ランニングコスト」は設備・装置の定期的なメンテナンスコストや教育訓練費等をいいます。「ランニングコスト」について詳しくは説明書の3～4ページをご参照下さい。

各年ランニングコスト	500,000	[円/年]
割引率	0.05	[-]
割引因子	0.95	[-]
各年ランニングコストの現在価値	2,164,738	[円]
最終価値	2,000,000	[円]
最終価値の現在価値	1,567,052	[円]
ランニングコストの現在価値	597,686	[円]

費用

- ・ 初期費用
 - ・ ランニングコスト
- ## 便益（事故による損害）
- ・ 被災者・遺族
 - ・ 物的破損
 - ・ 事故の事後処理
 - ・ 生産停滞

災害コストの実際（中災防,2004）記載のデータを入力することによる試行

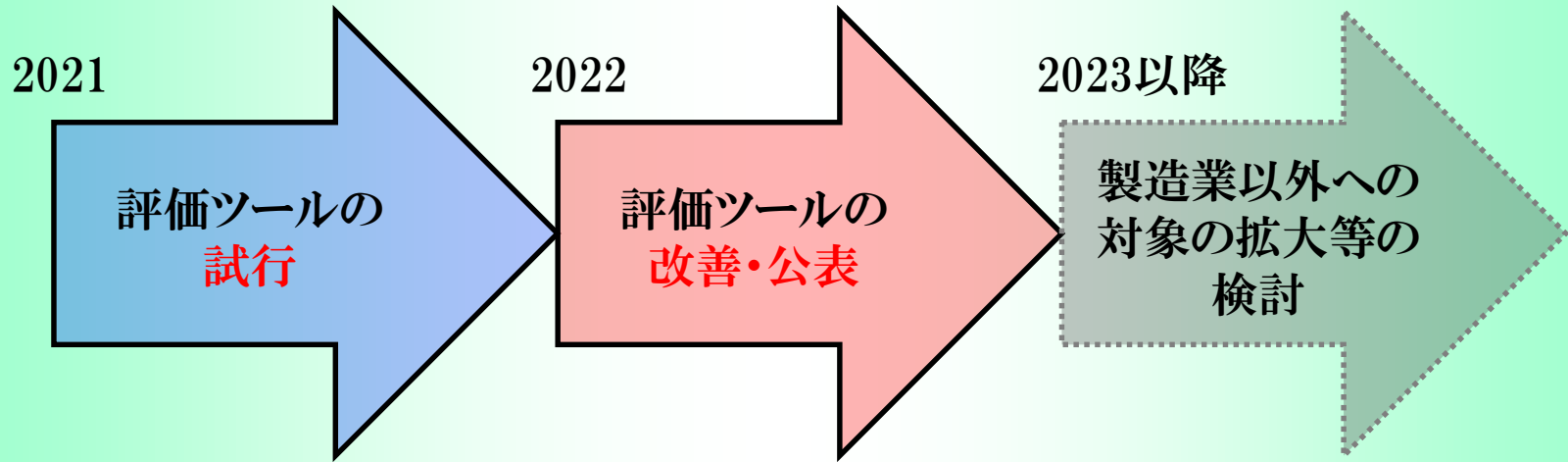
↓
損害項目がカバーされていること、ツールとして機能すること確認

いただいたご意見

- ・ 労働災害による 損失や対策を金額に換算して効果を評価する点が有効である、など
- ・ 損害項目を取捨選択すべき、頻度評価が困難、参照値を記載すべき、など

安全対策の経済的効果

2022年度の目標 評価ツールの詳細についてさらなる検討と改善



【評価ツールの詳細についてさらなる検討と改善】

- ・ 損害項目の取捨選択
- ・ 損害項目と頻度に関する参考値の整理
- ・ 評価事例の蓄積
- ・ 2023年3月末までに評価ツール完成版の公開を目指す